

エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

ECOダイヤキーパー 作業マニュアル

KeePer技研株式会社

ECOダイヤモンドキーパーで使用するツール

STEP.2 脱脂工程で使用

- 爆ツヤ
- 爆白ONE
- ラ・モップII
- 爆ツヤ専用小分けボトル
- 爆白ONE専用小分けボトル
- スポンジ 青



STEP.3 ガラスコーティングで使用

- ダイヤモンドキーパーケミカル
- スポンジ 黄
- ダイヤクロス



STEP.4 ECOプラスレジンコーティングで使用

- ECOプラスレジン
- ECOプラスレジン用スポンジ
- レジンクロス
- キーパークロス
- KeePerチェックライト



便利品

- ブレーキダストクリーナー(B.D.C)
- B.D.C用スプレー容器
- ホイール用スポンジ



- タイヤキーパー



- 柄付 タイヤスポンジ



ECOダイヤキーパー 作業の流れ



**⚠ 注意:アドバンスドライブのLiDAR表面には
ボディーコートは施工しないでください。**

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。
(レクサス[LS]・トヨタ[ミライ]等)



(写真) フロントナンバー下のLiDAR

STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



参考

- 経年車の場合、汚れに応じて下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくとその後の前処理の作業効率がよくなります。



「虫」汚れには

インセクトリムーバー

使用するツール

インセクトリムーバー
(ボディ・ガラス面の強力虫取り剤)



虫が付いている箇所に水をかけ、インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

タールリムーバー

使用するツール

タールリムーバー
(ピッチ・タールクリーナー)



ピッチが付いている箇所に水をかけ、タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

ブレーキダストクリーナーB.D.C

使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC
(自動車用ホイール洗浄剤)



B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

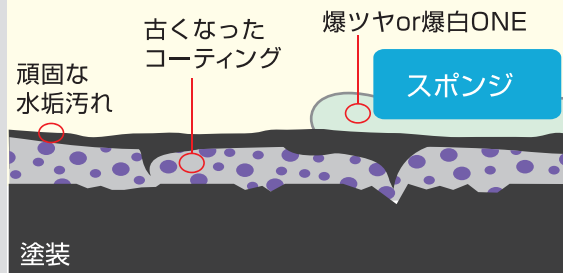
※ホイールコーティングをする場合は、「ホイールクリーナー」で前処理を行います。



STEP. 2 汚れ落とし工程

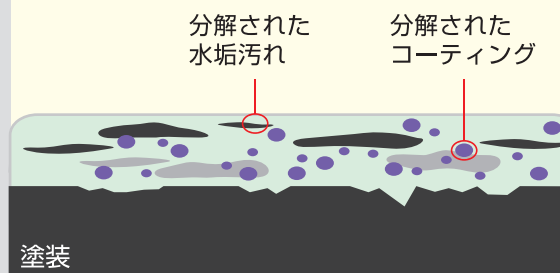
塗装表面の汚れを落とします

爆ツヤor爆白ONEを塗る



1 スポンジつ隙間なく塗り広げる。

付け置き



化学的な力で、汚れを分解し浮かせる。(付け置き)

汚れを動かす



浮いた汚れを軽く動かして崩す。

用意するもの



爆ツヤ (水垢落とし剤)

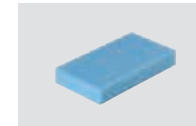
- どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど安全性を持った未だかつてない超安全な、強力洗浄剤です。
- 洗浄能力は爆白ONEの87%。コーティング塗布前の「脱脂」の機能まで持っています。
- 特に新車、黒色車に最適です。



爆白ONE (水垢落とし剤)

- アルカリの化学的な力と、超微粒子パウダーの物理的な力を併せ持ちながら、塗装を決して傷めない安全かつ強力な水垢除去剤です。(特許登録済)
- 水垢汚れだけでなく、古くなったコーティングをすっきりと落とすことができ、あらゆるコーティングの下地処理として有効です。<特許番号 第4077734号>

●スポンジ 青



●作業用ゴム手袋 (爆ツヤ・爆白ONE作業時のみ使用)



●ラ・モップ II



STEP.2 汚れ落とし工程

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

- ① 「爆ツヤ」を「スポンジ 青」に適量取る

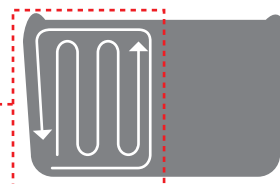
*太線1本



- ② ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

*塗り広げる時の
スポンジの動き

1スパン



- ③ 3スパンまで①・②の
作業を繰り返す

⚠ 注意:

- 「爆ツヤ」または、「爆白ONE」をボンネットなどの隙間に入れないよう注意してください。面の場合は中から塗り広げ、最後に枠を囲めば隙間に入りにくくなります。



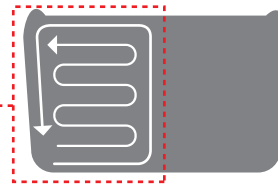
STEP.2 汚れ落とし工程

④ 1スパン目に戻って、 塗り広げた塗装面を 軽くこする(汚れを動かす)

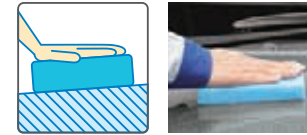
👉 参考

- よりきれいにするために、ドアノブのツメによるキズの汚れやエンブレムなど細かな所は特にしっかりと汚れを落とします。

*軽くこする時の
スポンジの動き



*軽くこする時の
スポンジの押さえ方
支えるように軽く押さえる。



⑤ ボディ全体に①～④の作業を行う

👉 参考

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)

⚠️ 注意:

- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



STEP.2 汚れ落とし工程

6 ラ・モップⅡを使って 「爆ツヤ」をしっかりと洗い流す



- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。



7 合成セーヌで水減らしをし、 エアガンで隙間の水を飛ばす



- 塗装にエアガンを近づけすぎると、塗装を飛ばす恐れがあるため、50cm程離します。



- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



8 ボディ、窓、ステップ、ボンネットの裏の 水を拭き上げ



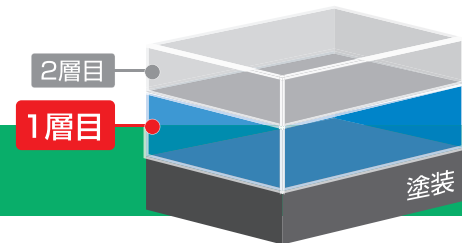
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。ステップ等を拭いたタオルを窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

使用ツール
(左)キーパークロス
(右)快洗Taoる

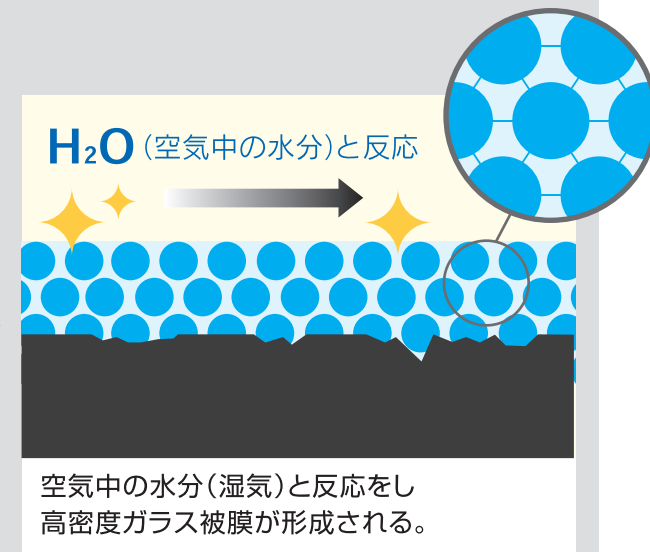
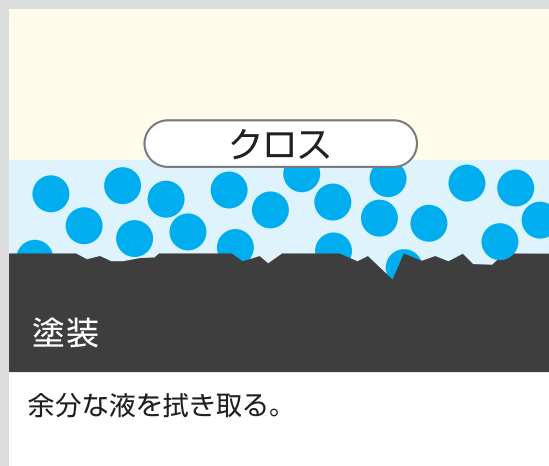


- ボディの水滴を「キーパークロス」、窓の水滴を「快洗Taoる」で拭き取ってください。

STEP. 3 ガラスコーティング



一層目のガラス被膜を形成します



用意するもの



ダイヤモンドキーパーケミカル (ボディガラスコーティング剤)

- 最高級品質のツヤと光沢を出す本物のボディガラスコーティング剤。施工性の良さも魅力です。
 - 塗装を傷める成分を一切含まないので、安全に施工することができます。
- <ドイツSONAX社と共同開発商品>



マイクロスポンジ

新品を使用してください。



ダイヤモンドクロス (×4枚以上)

新品を使用してください。
※このダイヤモンドクロスでの拭き上げが絶対に必要です。



STEP.3 ガラスコーティング

塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

- **ダイヤモンドキーパーの施工はピット内などホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工はボディに傷をつける原因となります。



- **炎天下はもちろん、温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

① 乾いた「マイクロスポンジ」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー



参考

- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「マイクロスポンジ」を近づけてスプレーします。

*最初は2往復 (Wの字) *以降は1往復 (Vの字)



② 約50cm四方の面積に、タテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる



注意:

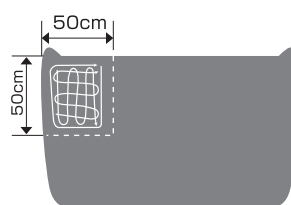
- 1スパンの面積を約50cm四方の面積よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)



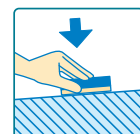
参考

- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
スポンジを軽く掴むように持つ



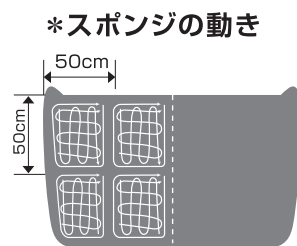
STEP.3 ガラスコーティング

③ ボンネット半分位の面積に

①②の作業を繰り返す

👉 参考

- 湿度が高い場合は、③の面積を小さくすると施工しやすくなります。



④ 1枚目の乾いた「ダイヤクロス」で拭く

👉 参考

- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。
- クロスは面を換えながら拭き上げてください。

* クロスの動き



* クロスの持ち方

クロスのカドを親指でロックするように挟む

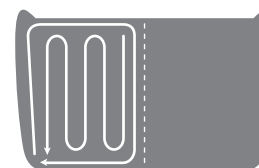


⑤ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

👉 参考

- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

* クロスの動き



STEP.3 ガラスコーティング

6 ボディ全体に①～⑤の作業を行う



参考

- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。(付いても害はありません)

コーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→
左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→
左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→
左フロントフェンダー→フロント周り



ワンポイントアドバイス

● 拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

● 飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編

窓用クリーナーなどを、
キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編

湿らせて固く絞ったキーパークロスで
拭き取ります。

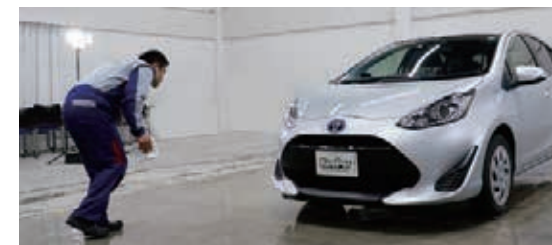
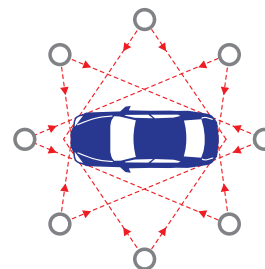
7 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から
施工車を見て、拭き残しがないか確認します。

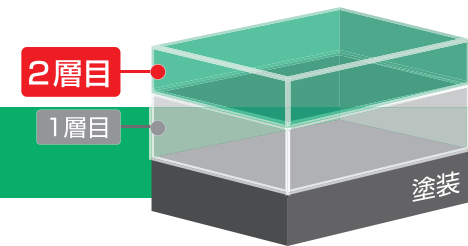


参考

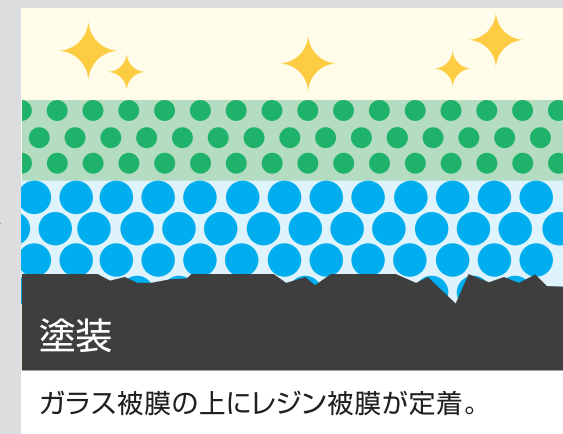
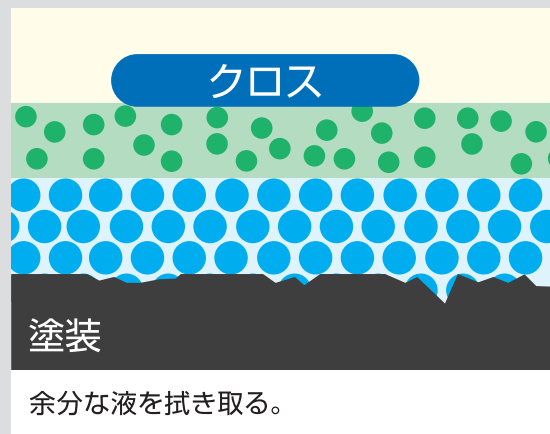
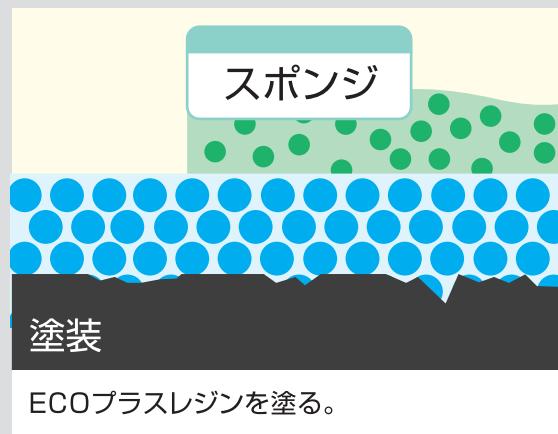
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認します。
- 側面は、ボディに映り込んだ「白いボード」等に拭き残しがないか確認します。



STEP. 4 ECOプラスレジンをコーティング



2層目のレジンを被膜を形成します



用意するもの



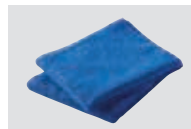
ECOプラスレジン (レジンをコーティング剤)

●ECOプラスレジンは、特殊なコーティング表面の分子構造の効果で、ファンデルワールスカ(分子間力)による“汚れ”の密着を防ぐ独特な防汚能力を持ち、ホコリが降り積もっても塗装表面には密着せず、自然の雨が降れば元々持っている撥水力で、弾かれた水と一緒にホコリなどの汚れが流れ落ち、まるで洗車をしたようにキレイになります。



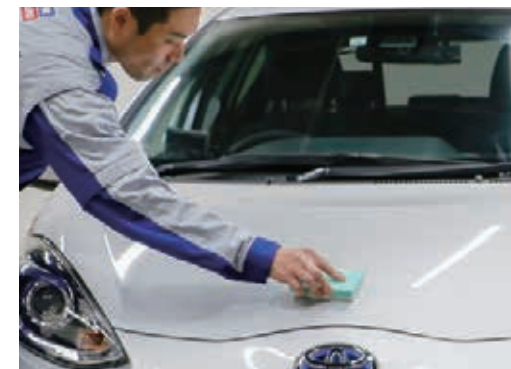
ECOプラスレジンをスポンジ

ECOプラスレジンのためのスポンジ



レジンをクロス (×6枚以上)

ECOプラスレジンの拭き上げ用のクロス。



STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

① 「ECOプラスレジン用スポンジ」に「ECOプラスレジン」を適量つける

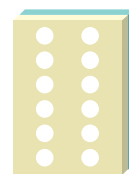
⚠ 注意:

- エコプラスレジン、開封後も冷蔵(凍)保管で72時間後も使用可能です。

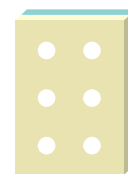
*キャップの開け方
下に押し込みながら
反時計回りに回します。



*最初は12滴



*以降は6滴



② ボンネット1/4位の面積に タテヨコに隙間なく フチまで塗り広げる

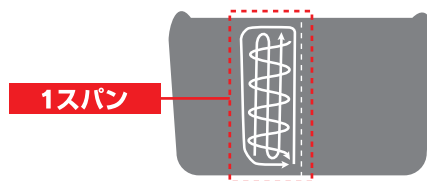
👉 参考

- 「ECOプラスレジン用スポンジ」の動きが重く感じたら「ECOプラスレジン」を足してください。

⚠ 注意:

- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
軽く掴むように持つ

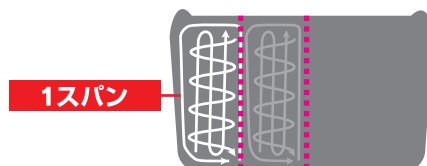


③ とんりのスパンに、 ①～②の作業を繰り返す

👉 参考

- とんりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

*スポンジの動き



STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

4 1枚目の乾いた「レジंकロス」で クロスを換えながら2回拭く



参考

- 「ECOプラスレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジंकロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



5 2枚目の乾いた「レジंकロス」で クロスを換えながら2回仕上げ拭き



参考

- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジंकロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。

*クロスの動き

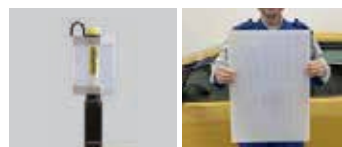


6 1パネル毎に拭き残しが ないか 3枚目の乾いた「レジंकロス」で確認



参考

- ECOプラスレジン、拭き残しが固まって拭けなくなるため（クリーナーで取れる）濃色車・淡色車でも容易に拭き残しが確認できる「Keeperチェックライト」・「EXチェックボード」の使用を推奨しています。
- 拭き残しがなければ、余計に拭く必要はありません。



ライトで塗装面を照らして、ライトの映り込みを見ながら拭き残しをチェックする

STEP.4 ECOプラスレジンをコーティング

7 ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「ECOプラスレジン」が入り込まないように注意してください。
- もし「ECOプラスレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。



エコプラスレジンコーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り

※作業の途中で、拭き取りにくになったら「レジンクロス」を換えてください。

※作業の途中で、塗り広げにくになったら「ECOプラスレジン用スポンジ」を換えてください。



STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

8 仕上がり確認

参考

- ボディは「KeePerチェックライト（推奨）」を使用し、拭き残しがないか確認。
拭き残しがあれば、乾いた「レジンクロス」で仕上げ拭き。
窓、レンズ類、樹脂パーツは、
水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げます。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認します。
- 側面は、ボディに映り込んだ「白いボード」等に拭き残しがないか確認します。

使用ツール
キーパークロス



蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認します。



ボディに映り込んだ「白いボード」に拭き残しがないか確認します。



白い車(淡色車)は「日陰で作業灯」を使って映り込みを見ながら確認します。

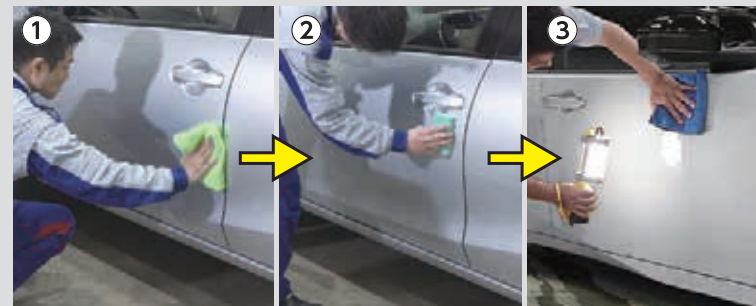
● 拭き残しが固まって取れない場合は、一旦、ECOプラスクリーナーですべてを取り除いてやり直します

- ① ECOプラスクリーナーをキーパークロスに大きくWを描くように付けて、1パネル全体にタテヨコ隙間なく擦って拭き取る
- ② 拭き残しが取れたことを確認してから一層目のダイヤモンドキーパーケミカル、二層目のエコプラスレジンを施工
- ③ 「KeePerチェックライト（推奨）」で拭き残しがないか確認し完了

⚠ 注意：

- 1パネル全体を行う理由は、エコプラスレジン施工時間が経ってから重ねて塗るとムラになる場合があるためです

使用ツール
エコプラスクリーナー



STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

⑨ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化

もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- ECOダイヤキーパーは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化をさせて完了です。すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、**施工後10分間**置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。



ワンポイントアドバイス

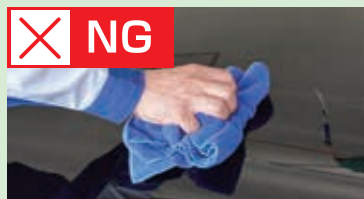
●コーティング施工時のNGな動作集



スポンジを押さえる時に力を入れすぎ



スポンジを握るようにして使う



クロスを握るようにして使う



クロスを広げたまま使う



円を描くように塗布する



容器や道具をボディに載せる

●拭いても取れないムラがある場合は ダイヤモンドキーパーケミカルの 拭き残しです。

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、拭き残しのある部位を軽くこすってから、ダイヤクロスで速やかに拭き取り、再度ECOプラスレジンを施工して仕上げてください。



コーティングホールドを行う場合

① 「コーティングホールド」の作業を行う

👉 参考

- 屋内で「夏2時間～冬5時間」の自然硬化と、コーティングホールドで時間短縮をした場合では仕上がりと品質は変わりません。

コーティングホールドを行う場合の使用ツール
(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



ECOタイヤキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する

- ① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
- ② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
- ③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
- ④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
- ⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
- ⑥ 水滴残りがなければ確認

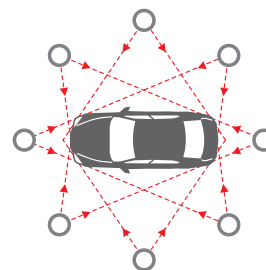


② 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

プレミアム仕様

**ECOダイヤキーパー
プレミアム作業マニュアル**

ECOダイヤキーパー・プレミアム 施工箇所

ボディ

ダイヤモンドキーパーケミカル・ECOプラスレジン



レンズ・バイザー

レンズコーティング



窓ガラス

ウィンドウガラスフッ素
ガラスポリッシャーSiC2



エンジンルームの中

レジン2
ホイールクリーナー



ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側

ダイヤモンドキーパーケミカル・ECOプラスレジン



ホイール

ホイールコーティング (ダブル)









無塗装樹脂パーツ

樹脂フェンダーキーパー



ECOダイヤキーパープレミアム 作業の流れ

	ボンネット・トランク ドア・給油口の内側	ホイールコーティング (ダブル)	レンズ・バイザー コーティング	超撥水 ウィンドウコーティング	無塗装樹脂パーツ	エンジンルームの中
						
	使用ツール ●ダイヤモンドキーパーケミカル ●ECOプラスレジン ●Eクリーナー	使用ツール ●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー	使用ツール ●ポリカコート	使用ツール ●ウィンドウガラスフッ素 ●ガラスポリッシャーSiO ₂	使用ツール ●樹脂フェンダーキーパー	使用ツール ●レジン2 ●ホイールクリーナー
STEP.1 洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	ホイールクリーナーで洗淨
STEP.2 脱脂工程	Eクリーナー	ホイールクリーニング	爆ツヤ	油膜取り	爆ツヤ	
STEP.3 ガラスコーティング	ガラスコーティング					
STEP.4 ECOレジンコーティング	ECOレジンコーティング	ホイールコーティング(1回目)		ウィンドウガラスフッ素		
コーティング ホールド		ホイールコーティング(2回目) (コーティングホールド)	ポリカコート (コーティングホールド)		樹脂フェンダーキーパー (コーティングホールド)	レジンコーティング

※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

メンテナンス

作業マニュアル

Aメンテナンス

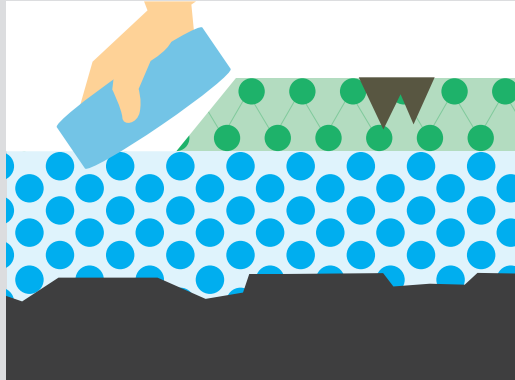
P23～P28

Bメンテナンス

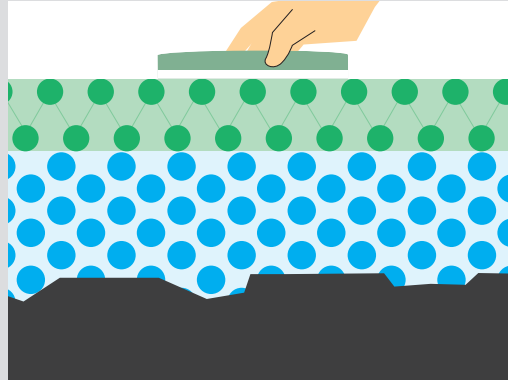
P31～P36

A メンテナンス

Aメンテナンスは新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替えます。



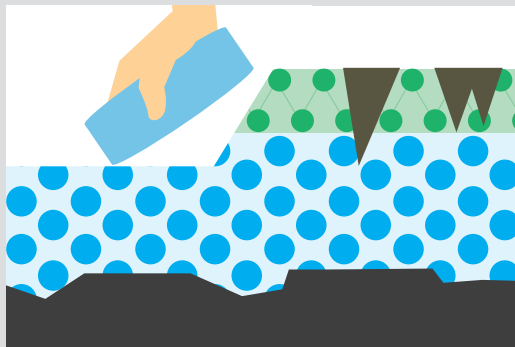
Eクリーナーでコーティング被膜を洗浄し



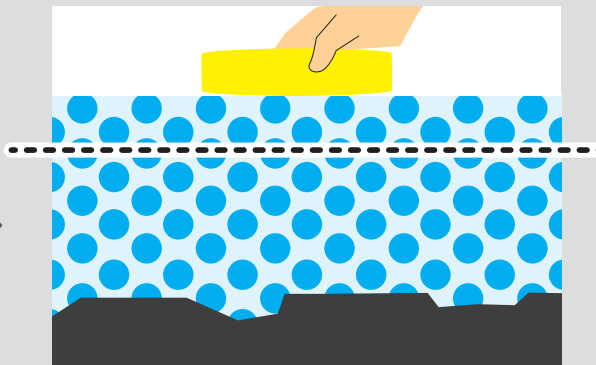
新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替える

B メンテナンス

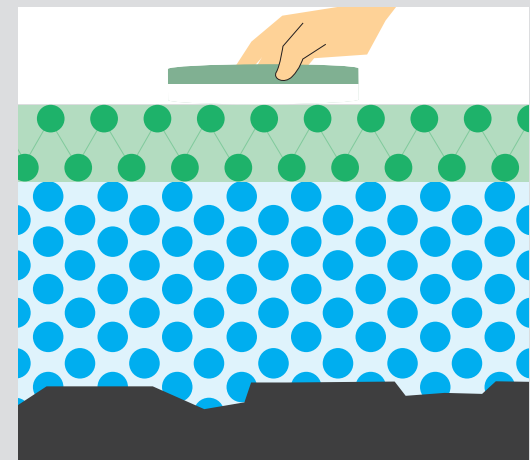
Bメンテナンスは下部のガラス被膜を整え、新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替えます。



爆ツヤ(爆白ONE)でコーティング被膜を洗浄し



ガラス被膜を補強してから



新鮮なECOプラスレジンを被膜に入れ替える

エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

Aメンテナンス

Aメンテナンスで使用するツール

STEP.2 Eクリーナーで前処理 STEP.3 ECOプラスレジン

- Eクリーナー(1.7L)
- スポンジ 青
- ECOプラスレジン
- ECOレジン用スポンジ
- レジンクロス



●KeePer
チェックライト



●快洗Taoる



●キーパークロス



●EXチェックボード



Aメンテナンス 作業の流れ

STEP.1 洗車

P 24



オプション **鉄粉取り** (鉄粉が付着している場合)

P 37

STEP.2 Eクリーナーで前処理

P24~P27

STEP.3 ECOプラスレジン

P28



夏2時間~冬5時間の自然硬化またはコーティングホールド

STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをする



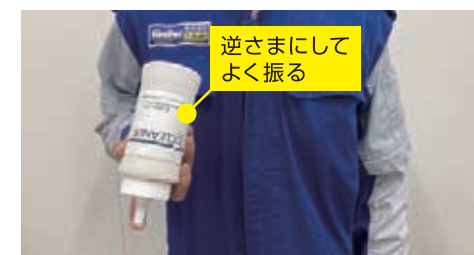
STEP. 2 Eクリーナーで前処理

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

① Eクリーナーを逆さまにしてよく振る。

⚠ 注意

- 小分けボトルを逆さまにして、5回以上よく振ってください。
- Eクリーナー（1.7L）を小分けボトルに移し替える際も、よく降ってから移し替えてください。



② 水で湿らせ固く絞った青スポンジにEクリーナーを適量付ける。

*太線1本



STEP.2 Eクリーナーで前処理

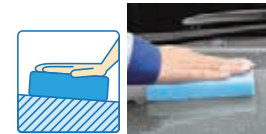
③ Eクリーナーを塗り広げて、
クロスの方に軽くスポンジを動かして、汚れを取る。

👉 参考

- 1スパンをボンネット半分程度の大きさで、隙間なくフチまで塗り広げる。
- 汚れが多い場合は、事前に爆ツヤもしくは爆白ONEで洗浄し、その後洗車をし、よくすすいだ後に「Eクリーナー」の作業を行う

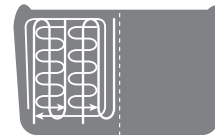
*塗り広げる

スポンジの持ち方。



*汚れを取る

スポンジの持ち方。



④ ボディ全体に②③を繰り返す。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
 左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
 右ボンネット→右フロントフェンダー→
 右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
 リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
 左前ドア→左フロントフェンダー→
 フロント周り



STEP.2 Eクリーナーで前処理

⑤ エアガンで、隙間に入った水滴、粉を軽く吹き飛ばす。

ポイント

- ワイパー廻り
- タイヤ・ホイール
- バイザー
- 給油口
- アンテナ
- ドアミラー
- ドアノブ
- フロントグリル



⑥ キーパークロスで拭き取る。 窓ガラスに付いたEクリーナーは、 快洗タオル(赤)で拭き上げる。



注意

- 白い粉が出やすいので気をつけて拭き上げる。



作業の流れ

右前ルーフ→エンジン掛け→右前窓→
右前ドア→右後ルーフ→右後窓→
右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→
左リアフェンダー→左後ルーフ→左後窓→
左後ドア→左前ルーフ→左前窓→左前ドア→
左ボンネット→左フロントフェンダー→
フロント周り→右ボンネット→
右フロントフェンダー

※脚立有りの場合はルーフを先に仕上げる。



STEP.2 Eクリーナーで前処理

7 ボディの内側に付いた Eクリーナーの白い粉をキレイに拭き取る。



注意

- ボディの内側は専用の快洗タオル(白)を用い、キレイな面を常に使用する。



参考

- ボディの内側などにゴミや枯葉などがある場合は取り除く。



8 水滴、拭き残しがないか確認する。



STEP. 3 ECOプラスレジン

① ECOプラスレジンコーティングを施工する

施工内容は

「ECOダイヤキーパー STEP4 ECOレジンコーティング」参照

参照ページ：P10～P15



② 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化

もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- ECOダイヤキーパーは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

コーティングホールドの施工内容は

「ECOダイヤキーパー コーティングホールドを行う場合」参照

参照ページ：P16



エコダイヤキーパー

ECO DIAMOND KEEPER

Bメンテナンス

Bメンテナンスで使用するツール

<p>STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●爆ツヤ ●爆ツヤ専用小分けボトル ●スポンジ 青 ●キーパークロス ●快洗Taoる 	<p>STEP.3 ガラスコーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダイヤモンドキーパーケミカル ●スポンジ 黄 ●ダイヤクロス ●蓄圧式水スプレー 	<p>STEP.4 ECOプラスレジン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ECOプラスレジン ●ECOレジン用スポンジ ●レジンクロス ●KeePerチェックライト ●EXチェックボード 
--	--	--

Bメンテナンス 作業の流れ



STEP. 1 洗車・汚れ落とし(コーティング前処理)

① 洗車、コーティング前処理をしっかりと行います

施工内容は

「ECOダイヤキーパー STEP1:洗車・STEP2:汚れ落とし工程」参照

参照ページ：P2～P5



STEP. 3 ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

⚠ 注意:

- 天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、予め水をかけるなどして、よく冷ましてから施工してください。



① フロントガラスの上部にタオルを当てておく

👉 参考

- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。



STEP.3 ガラスコーティング

② 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

👉 参考

- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

*最初は2往復 (Wの字) *以降は1往復 (Vの字)

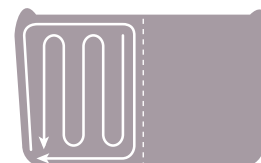


③ ボンネット半分位一定方向に「隙間」なくフチまでしっかり塗り広げる。

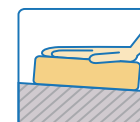
👉 参考

- スポンジ(黄)がボディの水分を含んできたら、絞ってダイヤモンドキーパーケミカルを足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

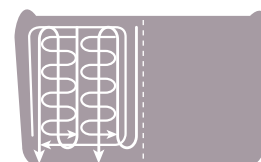
*スポンジの動き



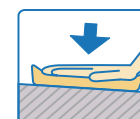
*スポンジの持ち方
スポンジを支えるように軽く押さえます。



④ ③で塗り広げた範囲をクロス方向にすり込み、ガラス被膜を定着させる



*スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが半分へこむ位の力で押さえる



STEP.3 ガラスコーティング

⑤ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で拭く

参考

- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑥ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

参考

- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑦ ボディ全体に①～⑥の作業を行う

注意:

- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。
ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→左フロントフェンダー→フロント周り

STEP.3 ガラスコーティング

8 エアーガンでタオルで拭けない 「隙間」の水を飛ばす

👉 参考

- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



9 ボディ、窓、ステップ、 ボンネット裏の水を拭き取る

⚠️ 注意:

- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

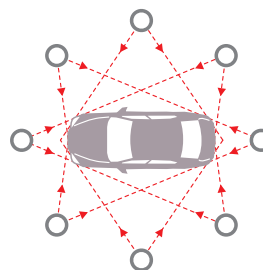


10 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



STEP.3 ガラスコーティング

ワンポイントアドバイス

●スポンジの正しい押さえ方 塗り広げて被膜を形成させる時



手に力を入れずにボディに置く。



そのままの感触でスポンジの上に乗せる。



そのままの状態ですり広げる。

被膜を定着させる時



指先を体の内側へ向けるように手首を曲げる。



スポンジが半分へこむ程度、手のひらで押さえる。



リズムカルに力を入れて定着させる。

× NG



つまむように持つ。

× NG



押さえる力が均等でなく、塗装面に均等に接していない。

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルを黄スポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編

窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編

湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP. 4 ECOプラスレジン

① ECOプラスレジンコーティングを 施工する

施工内容は
「ECOダイヤキーパー STEP4 ECOレジンコーティング」参照

参照ページ：P10～P15



② 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化 もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- ECOダイヤキーパーは、すべてを施工した後、
水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、
施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

コーティングホールドの施工内容は
「A・標準メンテナンス STEP4:エコプラスレジン」参照

参照ページ：P11



① オプション(鉄粉が付着している場合)

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



⚠ 注意: 塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



STEP.1 ピュアアップ4

- ① 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす



- ② 30~40cm四方を1スパンとし
トラップ粘土(青)でタテヨコに素早くこする

⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

👉 参考

- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。



- ③ ①~②の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う

⚠ 注意

- 鋭角なプレスラインは、またがないように作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



STEP.2 洗い流し

- ① 水で洗い流す

⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾いてこびり付いた場合は、
ファイナル1で擦ると取れます。



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
●アイアンイーター
(鉄粉除去剤)



①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1~2の作業を行う。

② 細密研磨(経年車で塗装が劣化している場合)

細密研磨

塗装表面が相当劣化している場合のみ行います



細密研磨で使用するツール

- アクアポリッシュ2
- RUPES (ルベス) LHR12E (回転数目安: 3~4)
- 低反発パフ
- マイクロスポンジ
- マスキングテープ



! 注意: 塗装面が乾いた状態で作業してください。

STEP.1 マスキング

① 洗車後、マスキングをする



参考

- ワイパー付近やウォッシャーノズルなど、必要な箇所をタオルやマスキングテープで保護してください。



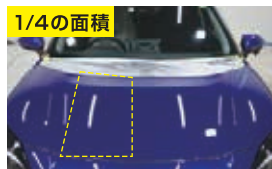
塗装面に「アクアポリッシュ2」がからむ場合は、「ポリッシャー」の回転数を低くして磨いてください。それでも改善しない場合は、キレイなパフに交換してください。



STEP.2 アクアポリッシュ2

① 「アクアポリッシュ2」をボンネット1/4の面積に 適量つけて塗り広げる

*大豆1~2粒くらいの量



③ 細かい部分を「アクアポリッシュ2」を つけた「マイクロスポンジ」で磨く



② タテヨコに磨く

! 注意

- 安全のため「低反発パフ」を塗装面と平行に軽く当ててから、スイッチを入れます。
- パフは塗装面と平行に当てて磨いてください。
- パフの回転が止まるほど強く押さないでください(機械の故障に繋がる)
- ゴム部、黒い樹脂部にはポリッシャーを当てないようにしてください。
- ポリッシャーのコードが車に触れないように、上面を施工する時は、コードを肩にかけて作業してください。
- プレスラインは「ポリッシャー」がクロス方向にまたがないように作業をしてください(下地が出やすくなり危険)



① 水で洗い流し、再度洗車を行う

! 注意

- マスキングを剥がす際は、水で濡らしてからゆっくりと剥がしてください。

! 参考

- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。
- 洗車後、残ったアクアポリッシュ2はキーパークロス(マイクロファイバークロス)で拭き取ります。

